

校内研修（主題研究）の概要

研究主題及び副題

主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けた生徒の育成

～ 各教科における活用型学習の在り方 ～

(1) 主題設定の理由

今日の我が国では、国際化、情報化、少子高齢化の進展など時代が急速に変化している。このような社会情勢の急激な変化に対応する教育として、国は、「生きる力」を育むために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視している。「確かな学力」の確立については、新学習指導要領の改訂において、基礎的・基本的な知識・技能の習得と共にそれらを活用する学習活動を充実させることが求められている。県教育委員会では、平成20年度より「のびよ！宮崎の子どもたち」のスローガンのもと、「第2期明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」を推進している。本年度は3年計画の最終年度であるが、学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくりの推進、学力向上対策の推進等が重点施策として掲げられている。

本校では、「高千穂を愛し、かしこく、やさしく、たくましい生徒の育成」を学校の教育目標として掲げ、「たくましい心身を備えた生徒、場と時をわきまえた適切な行動ができる生徒、ルールを守り学習に集中できる生徒」の育成を目指している。平成21年度は、これまでの研究の成果である授業改善システムを活用し、生徒の思考力・表現力・判断力を育成することを目指した研究を行ってきた。授業改善システムにより、教師の指導力は確実に向上し、また、授業において思考の場、表現の場を意図的に設定したことにより学習内容にも深まりが見られるようになってきた。しかし、思考・表現の材料となる基礎・基本の不足が集団の中での学力差を拡大しているという課題も同時に浮かび上がってきた。更に、基礎・基本の定着と家庭での学習習慣の在り方が密接に関わっていることも明らかになってきた。

そこで本年度は、研究主題を「主体的に学習に取り組み、基礎・基本を身に付けた生徒の育成」、副題を「各教科における活用型学習の在り方」とし、各教科において、活用型学習の授業の展開を通して、個々の生徒に確かな学力を身につけさせることを目指し、研究を深めていく。

(2) 研究仮説

各教科において、基礎・基本を踏まえた活用型学習を取り入れた授業を展開し、指導方法を工夫すれば、基礎・基本的な内容の定着が図られ、生徒が意欲を持って主体的に学習に取り組むことができるようになるであろう。

(3) 研究の内容

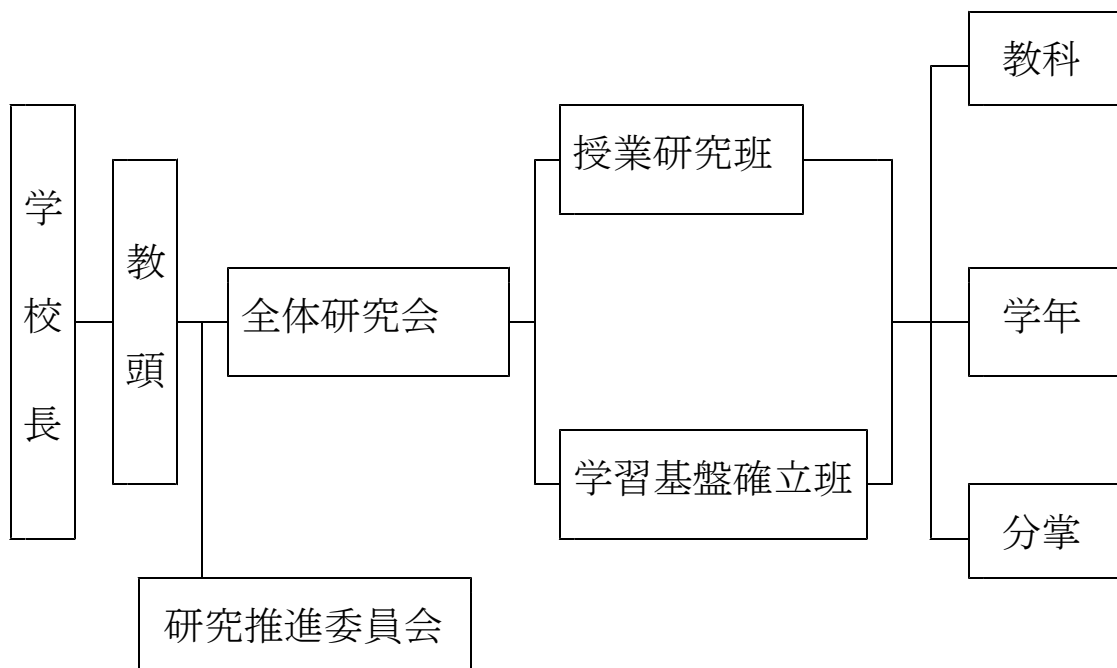
ア 生徒が意欲的に学ぶことができる授業づくりのための手立て

- ・ 各教科における活用型学習の定義
- ・ 指導案形式の改善と授業実践
- ・ 評価の工夫

イ 生徒の学習基盤の確立

- ・ 生徒や保護者の学習に関する意識調査，実態把握
- ・ 望ましい学習習慣の定着を図るための工夫
- ・ 基礎・基本の確実な定着につながる学習環境の整備
- ・ NRTテスト分析

(4) 研究組織



(5) 研究計画

月	日	曜	形態	内 容
4	28	水	全体	・ 経営案検討（研究主題，研究の方向性の確認）
5	12	水	全体 班別	・ 研究組織，研究計画の確認，指導案形式検討 ・ 班ごとの今後の取り組みについて
	19	水	全体	・ 指導案検討（学校訪問）
	26	水	全体	・ 学校訪問
6	30	水	班別	・ 各教科における「活用型学習」の定義づけ，研究授業の年間計画作成 ・ 実態把握，学習習慣を確立させるための具体策検討
7	23	水	全体 班別	・ 1学期の取り組み確認 ・ 学習習慣を確立させるための具体策検討
8	25	水	全体 班別	・ 2学期の取り組みについて ・ 基礎・基本の確実な定着につながる学習環境の整備
9	29	水	全体	・ 授業研究会（活用型学習を取り入れた授業の実践報告） ・ 基礎・基本の確実な定着につながる学習環境の整備
10	20	水	全体	・ 授業研究会（活用型学習を取り入れた授業の実践報告） ・ 基礎・基本の確実な定着につながる学習環境の整備
11	17	水	全体	・ 授業研究会（活用型学習を取り入れた授業の実践報告） ・ 基礎・基本の確実な定着につながる学習環境の整備
12	24	金	全体 班別	・ 紀要原稿の分担，成果と課題の検討 ・ 紀要原稿の作成
1	7	金	全体 班別	・ 紀要原稿の作成，校正
	26	水	全体	・ 紀要原稿読みあわせ
2	9	水	全体	・ 今年度の反省，次年度へ向けてのアンケート
	23	水	全体	・ 次年度へ向けてのアンケート分析
3	16	水	全体	・ 今年度のまとめ，次年度の研究内容検討